



現場から（最近のニュースから）

なぜ戦うのでしょうか



人々は平和を願っているはずなのに、いつもどこかで戦争は起こっています。今も、イスラエルとハマスの戦闘、ロシアとウクライナの戦争によって犠牲者が出ているというニュースが聞こえてきます。朝鮮半島も南北がいつぶつかるか分かりませんし、中国は台湾や南シナ海の問題で争いがあり、アフリカでは内戦が続いています。南米でも、内戦状態であると言われている国があります。どこを見ても、戦争ばかりです。そのような状況の中で、なぜ人は戦争をやめられないのかという疑問を持って、精神科医の片山珠美さんが書いたことが紹介されていました。

片山さんは、物理学者のアインシュタインと精神分析家のフロイトの往復書簡『ひとはなぜ戦争をするのか』を読んだそうです。この往復書簡は、1932年に国際連盟からアインシュタインが「今の文明においてもっとも大事だと思われる事柄を、いちばん意見を交換したい相手と書簡を交わしてください」と依頼され、相手としてフロイトを選んだことによって始まったということです。そこで、アインシュタインは「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか？」というテーマを選び、フロイトに問いかけたそうです。この問いに対して、エロスの欲動と破壊欲動に関する議論を展開した後、フロイトが導き出したのは次のような結論でした。「人間から攻撃的な性質を取り除くなど、できそうにもない！」ただ、それではまったく答えにならないと思ったのか、フロイトは次のようなことばを語ったそうです。「文化の発展を促せば、戦争の終焉へ向けて歩み出すことができる！」

それに対して片山さんは、「フロイトの結びの言葉は幻想的願望充足であり、文化がいくら発展しても、人間から攻撃的な性質を取り除くことは難しいのではないか。文化の発展を促すことは必要だが、それによって人間の攻撃的な性質がすべて消えてなくなるわけではないだろう。」と言っています。戦争だけではなく、ちょっとした不和やめごとで人間関係をめぐる問題に対処するときにも、先にこのことは覚えておいて、そのあとで、どうすれば実害を減らせるかを考えるべきだと言われています。（6月10日現代新書＜「ひとはなぜ戦争をするのか」…フロイトが出した「身も蓋もない答え」人間から攻撃性を取り除くことはできない＞より）

文化の発展によって人の攻撃的な性質を取り除くことはできませんし、戦争を止めることはできないというのは事実です。しかし、それは人がそうしたいからしているわけではありません。どうしようもない力が働いて、人がそのようになるしかなくなっているのです。そのどうしようもない力が何であって、それに対してどうしたら良いのか、アインシュタインやフロイトには分からなかったのでしょうか。立派な知識や研究する頭脳がなくても、人がどうしようもない力について知ることができ、どうすれば良いのかを見ることができます。それについていっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちが苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください